

循環型社会の形成、安定した廃棄物処理、環境保全への配慮を行い、豊かな自然を守るため、地域における更なるごみの減量化・資源化を推進する施設です。

ごあいさつ

本地区は、世界三大漁場の一つであるオホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、みどり豊かな大地と森林を有していることから、農林水産業が基幹産業となっています。

これまで、資源ごみを除く一般廃棄物は、各市町村で単独処理を行っていましたが、施設老朽化や新たな最終処分場整備が必要になったことから、平成20年に、ごみ処理の広域化を推進することとし、「循環型社会の形成」、「安定した廃棄物処理」、「環境保全への配慮」を基本方針に施設の建設を行ないました。

西紋別地区広域ごみ処理センターは、熱回収(焼却)施設・破碎選別施設・最終処分場から構成され、焼却に関しては国の基準より厳しい自主規制値を掲げ、豊かな自然環境の保全に配慮するとともに、リサイクルを推進し、最終処分量低減を図りました。

特に最終処分場につきましては、最新の最終処分技術である被覆型を採用し、漏水検知を備え、浸出水処理水を公共下水道施設(紋別アクアセンター)に運搬し適正に処理するなど、周辺環境に最大限配慮するとともに、降雨量に左右されない計画的散水による安定化を可能としたところであります。

最後になりますが、本施設の建設にあたりましては、深いご理解とご協力を賜りました周辺住民の皆様や組合市町村の方々をはじめ、多大なお力添えを賜りました関係者各位に対しまして、心から敬意と感謝の意を表しまして、ごあいさついたします。

平成24年12月
西紋別地区環境衛生施設組合長

中間処理施設 [熱回収(焼却)施設]

熱回収(焼却)施設は、燃やすごみを適正に処理するとともに、熱の有効利用に努め、ダイオキシン類等の環境対策にも万全を期しています。

中間処理施設 [破碎選別施設]

破碎選別施設は、燃やさないごみ及び粗大ごみの破碎処理を行い、金属回収をします。

最終処分場 [被覆施設]

熱回収(焼却)施設・破碎選別施設から発生する焼却灰や不燃物等を安全に埋め立てる施設です。屋根で覆われたクローズド型の施設により、降雨や降雪などの影響を受けずに計画的な安定化と適正な埋立処分を行うとともに、廃棄物の飛散や臭気など周辺環境に及ぼす影響を防ぎます。

最終処分場 [浸出水処理施設]

河川への直接放流を行わないように、埋立地から発生する浸出水(汚水)を公共下水道施設(紋別アクアセンター)に運搬し、適正に処理しています。

施設概要

- 施設名称：西紋別地区広域ごみ処理センター
- 所在地：北海道紋別市新生 224-1, 227, 228
- 搬入市町村：紋別市・滝上町・興部町・西興部村
- 敷地面積：83,725.00m²
- 建築面積：
 - 中間処理施設 1,982.64m²
 - 最終処分場 3,860.57m²
 - 浸出水処理施設 266.26m²
- 処理能力：
 - 熱回収(焼却)施設 26t/日(13t/日×2炉)
 - 破碎選別施設 5t/日(5時間)
 - 最終処分場 30,000m³(クローズド型)
 - 浸出水処理施設 10m³/日
- 処理方式：
 - 熱回収施設 准連続燃焼式焼却炉(堅型ストーカ式)
 - 最終処分場 管理型最終処分場
 - 浸出水処理施設 凝集沈殿+砂ろ過
- 工期：平成22年8月～平成24年12月

施設の特長

循環型社会の形成

- 従来の各市町村での処理から広域処理へ転換することで、資源及び熱回収を促進します。
- 熱回収(焼却)技術、破碎選別技術を導入し、最終処分場への負荷を低減します。

安定した廃棄物処理

- 最新の熱回収(焼却)技術、埋立技術等により、処理時の事故を防止し、広域圏の安定した廃棄物処理を実現します。
- 建設から維持管理におけるコスト削減に努めています。

環境保全へ配慮

- 最新の排ガス処理システム等を導入し、施設周辺の環境保全を図っています。
- 焼却時の余熱や雨水等を有効利用し、地球温暖化防止に配慮しています。

伐採樹木の再利用

建設地から伐採した樹木は、施設案内看板や腰壁・幅木等へ再利用しています。



施設案内看板

腰壁・幅木

施設配置図

